ケア「ケアロジー」の視点から、共通教養教育プログラムを再編成、改革する必要性に触れた。

2−3.「これからの立正大学」について

清水千尋副学長から、事務組織「FD／自己点検評価室」を核とした取り組みが紹介された。自己点検、FD推進の中で、「PDCA」サイクルの強化だけでなく、GPA、セメスター制等導入に向けた学事改革にも着手していくとのこと。続いて石黒大学事務局長が、大学事務組織の概要と現状抱えている問題点、そして活動の取り組み状況を解説した。

【ワークショップ】 新任教員が3つのグループに分かれ、講義を踏まえたテーマに沿ってワークショップを実施。より良い人材輩出、教育・研究活動のための意見交換が行われた。

【懇親会】 研修プログラム終了後、懇親会を開催。新任教員にとって、役職教職員との、また学部を超えた教員間の交流の良い契機となった。

研修会終了後のアンケートでは、プログラム内容、ワークショップの進め方など概ね好評であり、所期の目的を果たすことが出来たのではないかと考える。一方、開催時期や講義時間、意見交換の時間が短いなどの意見もあった。今後これらを参考に、より効果的なFD研修会の実施を目指したい。

4. FD推進活動状況報告（学部・研究科）について

FD推進委員会では、全学的な教育支援活動の企画立案とともに、学部・研究科の組織ごとに開催される授業研修会、研究会などの支援を行っている。授業改善と授業品質の基準策定、教育研究組織体制の整備・運営に取り組むために、学部・研究科等が年度当初に現状を把握し、具体的な方策を検討している。また、それぞれのミッションや重点目標を設定し、教育環境の改善に取り組んでいる。各学部・研究科の取り組み状況については、本学ホームページ「立正大学FD推進活動状況報告」を参照されたい。

5. 学外研修会・研究会報告

1 社団法人日本私立大学連盟主催

■平成20年度FD推進会議（専任教職員向け）
「FDの組織的推進方策を考える
～授業評価から教育業績評価への展開～」
開催日:平成20年6月21日（土）
会　場:上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区）

■平成20年度FD推進会議（新任専任教員向け）
「FDと大学教員の職能開発」
開催日:平成20年8月5日（火）～6日（水）
会　場:グランドホテル浜松（静岡県浜松市）

■平成20年度自己改革システム修得プログラム
目　的:大学改革を実効あるものとするために、大学改革を担う教職員がマネジメントサイクル（PDCAサイクル）を構築する手法を実践的に修得し、大学現場において日々機能させる。
開催日:平成20年9月1日（月）～3日（水）
会　場:アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）

2 社団法人私立大学情報教育協会主催

■平成20年度教育改革FD／IT理事長・学長等会議
「大学、国、社会連携による学士力の強化」
開催日:平成20年8月7日（木）
会　場:日本大学会館（本部）大講堂（東京都千代田区）

3 獨協大学視察

開催日:平成20年12月12日（金）　10:30～12:00
訪問先:獨協大学　自己点検・評価室

FD業務および自己点検・評価業務に携わる本学職員4名で、獨協大学 自己点検・評価室を訪問した。本学の自己点検・評価問題検討作業プロジェクトの一環として、他大学の取り組み状況や運営組織などの情報収集を行うのが目的。

獨協大学の組織・実施体制、全学的に取り組む際の周知徹底とその方法、教職員間の連携、職員の業務内容、実務作業者の人員体制、基礎データ、教員の研究業績の管理方法など諸活動における問題点や課題等、貴重な情報が得られた。

授業改善・教育効果の向上、また全学的な教育力の向上にむけ、教職員が一体となって教育改善を進める仕組みをつくり、本学らしいFD活動の構築につなげたい。

平成21年度FD推進委員

委員長　髙村弘毅（学長）　**副委員長**　清水千尋（副学長）
北川前肇（仏教学部長）北村行遠（文学部長）五味久壽（経済学部長）池上和男（経営学部長）鈴木隆史（法学部長）仲山佳秀（社会福祉学部長）米林仲（地球環境科学部長）齊藤勇（心理学部長）位田央（教務委員会委員長）佐藤一義（自己点検・評価小委員会委員長）
伊藤瑞叡（文学研究科長）元木靖（経済学研究科）山下学（法学研究科）榊原英夫（経営学研究科）三友量順（社会福祉学研究科）後藤真太郎（地球環境科学研究科）中田洋二郎（心理学研究科）
田中祥友（大崎学事担当部長）安永光男（熊谷学事担当部長）

RISSHO UNIVERSITY
FD NEWS LETTER vol.2
平成21年7月30日発行
編集発行：立正大学学長室政策広報課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL：03-3492-5250　FAX：03-5487-3340
URL：http://www.ris.ac.jp/

「モラリスト×エキスパート」を育む。
立正大学
RISSHO UNIVERSITY
FD NEWS LETTER
立正大学 FD（ファカルティ・ディベロップメント）推進だより
vol.2
発行日
平成21年7月30日
URL
http://www.ris.ac.jp/

熊谷キャンパス再開発事業：
第一期完成のアカデミックキューブとスポーツキューブ

1 立正大学のFD―モラルと専門性を兼ね備えた人材を育成するために―（学長　髙村弘毅）
FDの推進と教員の意識改革（FD推進担当　副学長　清水千尋）
2・3・4 立正大学FD活動報告（平成20年度～平成21年度）
1.FD委員会の開催 ／ 2.FD講演会 ／ 3.FD新任教員研修会報告
4.FD推進活動状況報告（学部・研究科）について
5.学外研修会・研究会報告
平成21年度FD推進委員

立正大学のFD ― モラルと専門性を兼ね備えた人材を育成するために ―

学　長　髙村弘毅

高等教育大衆化の流れの中で、何よりも大学に求められるのは教育の質的充実である。これを着実に図っていくには、建学の精神を踏まえたカリキュラムの策定、そしてその絶えざる見直しが必要となる。また、大学教育に携わる教員自身の力量の向上、すなわちファカルティ・ディベロップメント（FD）への努力も欠かすことは出来ない。立正大学は昨年度に引き続き、授業改善に関する多面的な取り組みを進めている。こうした取り組みを通して、本学学生に対する教育的責任が全う出来るものと考える。

本学が目指すのは、建学の精神を規範にした、感性に根ざすモラルと広い教養を備えたエキスパートの育成である。この目標から新たなブランドビジョンを構築し、その具現に努めたい。

FDの推進と教員の意識改革

FD推進担当　副学長　清水千尋

立正大学のFD推進の取組みは学生による授業改善アンケートの実施にとどまらない。

①FD推進の学内研修会を年2回実施し、学部も学外の研修会に積極的に参加した。
②授業改善アンケートを継続して実施した（アンケートの方法などについて検討中）。
③学部はFD活動状況を「FD活動評価シート」にして取り組み状況を確認・評価し、次年度取り組みに活かす工夫をし、それをHPに載せた。
④FD活動状況をホームページや「NewsLetter」に公開した。
⑤大学院改革委員会報告書に基づき、大学院の改革に取り組み、いくつかの改革が眼に見える形で実現された。

現在までのFDの推進を継続し、さらに発展させるには、2つの課題があるように思われる。第一に、FDを担う教職員の意識改革である。教員個人レベルのFDをより充実させ、大学全体の取り組みにするには、FD取組みの意味を教員へ浸透させなければならない。講演会やシンポジウムのほかに、なお、新任教員研修を充実させ、FD合宿研修なども検討する必要があろう。平成21年度には、新任教員研修は、従来の方法を変えて、ワークショップを取り入れながら、学部を超えた意見交換が行われ、参加者には好評であった。第二に、FDの取組みをカリキュラムなどの教育改善などにステップを進めることである。学士課程教育の質の保証・社会人基礎力の養成の要請があるなかで、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの3つのポリシーを大学教育のなかにどのように位置づけ、具体化するかがポイントとなろう。

学則には各学部・各学科の人材養成目的がすでに規定されている。この人材養成目的のために、3つのポリシーを連関させて、質の保証を担保する「立正大学スタンダード」の構築を図らなければならない。

学事改革が平成18年度から検討が開始され、平成22年度完全実施が予定されている。すでに現在までに改革が一部実施されている、①導入教育を視野にいれた教養教育改革、②セメスター制を視野に入れた9月卒業制度の導入、③GPAおよび学生指導への応用、④Webシラバスの導入などである。それらの議論を通じて感ずることは、問題を共有することの大切さである。教員が自由な立場で問題を共有する環境を整備していく必要がある。立正大学FDの究極の目標は、「変わる、立正大学」である。学生、卒業生、社会から「素晴らしい大学」という評価を受けることである。

そのためには、今後は、FDを教員のみのものと考えずに、職員や学生も巻きこんだ大学全体のものとして取り組むことであり、そのためには、FD参加者にとって有益なFDを実施するとともに、FDに参加しやすい状況を設け、FDを横へ縦へと成長させ、豊かな実りに発展させていかねばならない。

立正大学FD活動報告(平成20年度～平成21年度)

1. FD委員会の開催

1 開催日:平成20年4月14日(月)　16:00～17:00
会　場:立正大学 大崎キャンパス　第1会議室
議　題:1)学事改革の件　2)その他

2 開催日:平成21年3月5日(木)　13:30～15:00
会　場:立正大学 大崎キャンパス　第1会議室
議　題:1)自己点検改善項目検討スケジュールについて
2)教員総合評価制度について
3)平成21年度FD講演会について　4)その他

3 開催日:平成21年5月1日(金)　13:30～14:30
会　場:立正大学 大崎キャンパス　1号館1階　第3会議室
議　題:1)教員情報システムについて　2)平成21年度 FD推進活動計画について　3)その他
報　告:1)FD推進講演会について　2)FD･新任教員研修会について　3)学外FD推進研修会(FD推進会議～私大連主催)について　4)その他

2. FD講演会

1 ICTを活用したFDの取り組み事例と全学的な教育サポート体制について

開催日:平成20年6月2日(月)　15:00～16:30
会　場:立正大学 大崎キャンパス第6会議室・熊谷キャンパス13B1教室
(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)
講演者:立田ルミ氏　獨協大学経済学部経営学科教授

平成20年6月2日、「ICTを活用したFDの取組事例と全学的な教育サポート体制について」をテーマとして、平成20年度第1回FD推進講演会が開催された。この講演会は、他大学の取り組み事例を参考として、本学教職員が共通認識に立った上で、本学全体のFD活動につなげることを目的としている。

講演者には、獨協大学経済学部経営学科教授 立田ルミ氏をお招きし、獨協大学をはじめ、客員教授として赴任していたイリノイ大学のICT利用教育とサポート体制について、その取り組みを紹介していただいた。「教員がICTを活用するためには、1.教室の設備 2.教員のスキル 3.学生の利用環境 4.教材作成環境 5.教員へのサポート の5つが必要である」「教育改善を推進するためには、授業支援体制の確立が重要である」などの説明から、立田氏は組織的FD活動の重要性を強調された。

参加者からは、「ICTを活用した授業において、講義時間の適正な活用が進むとともに、教材の幅が広がり、より分かりやすい授業を行うことができるのではないか」「先駆的な取り組みの具体的事例を見ることができ、ICT活用の可能性を共有することができた」などの意見が聞かれた。

2 大学における教育評価の開発の意義 ～初年次教育の重要性をふまえて～

開催日:平成20年12月5日(金)　14:00～15:30
会　場:立正大学 大崎キャンパス第6会議室・熊谷キャンパス13B1教室
(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)
講演者:山田礼子氏　同志社大学社会学部教育文化学科教授

各大学とも、多様な入試で受け入れた学生の基礎学力を確実に養成し、学生を学習面から生活面まで円滑に適応させることが求められている。平成20年度第2回目となるFD推進講演会は、『ユニバーサルアクセス時代における初年次教育の重要性を再確認し、大学における教育力の強化につなげたい』との趣旨のもと開催された。

講演者には、同志社大学社会学部教育文化学科教授　山田礼子氏をお招きし、初年次教育の定義や評価、専門教育への橋渡しとなるようなカリキュラム、教育方法等について、同志社大学の事例をまじえて紹介していただいた。初年次教育について「正規教育課程だけでなく、教育課程外(クラブ活動、サークル等)も含め取り組むべき課題であり、修学面と生活面の両方から包括的に学生を支援することが必要である」「初年次教育で完結ではなく、2年次も引き続き初年次教育を実施していくことが必要である」などの点を踏まえ、総合的な教育力醸成のために大学全体でPDCAサイクルの実践に取り組むべきだと説かれた。

参加者からは、「他大学の現状を知ることで本学がどのように進むべきか考える良い機会となった」「学士教育、初年次教育の重要性について、教職員の役割も含め再認識する必要がある」などの意見が聞かれた。

3 自己点検・評価を機能させるために

開催日:平成21年6月18日(木)　14:30～16:30
会　場:立正大学 大崎キャンパス第6会議室・熊谷キャンパス第1会議室
(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)
講演者:安岡高志氏　立命館大学教育開発推進機構教授

講師の安岡教授は、自己点検活動の草分けとも言える大家。教職員の関心も高く、留学生入学試験の前日という繁忙日にも関わらず、鋭意の出席者が集まった。

講義は、大きく三部に分かれる。まず学士課程教育で育成すべき人材像を確認し、それを目標と定めた組織改善、業務改善について考えた。教育目標を達成するためには、学生、教員、職員の三者協働が必要であると安岡教授は説いた。

次に、FDが組織ぐるみの取り組みであることを踏まえ、FDに携わる人材が持つべき牽引力、リーダーシップについての言及があった。FDに限らず、組織の目標達成には構成員によるビジョン共有が欠かせない。FDに携わる者には、ビジョンを周囲に示せ、協働のための工夫を形に出来る人材がふさわしい。

最後のパートには、誰に対してのFD活動か、誰のためのFD活動か、という視点が含められた。ホスピタリティである。FDにおいては、学生、教員、職員の三者が互いの協働者であり、顧客である。安岡教授は、互いの望むところを探り、それを骨惜しみせず実現しようとする姿勢が、大学全体の動機付けにも繋がるとし、講演を結んだ。

講演を通じて強調されたのは、目標設定の重要さである。目標に対する組織の共通認識醸成、加えて達成のための工夫が、今後のFD推進の要と言えよう。

4 機能するGPAとは

開催日:平成21年6月26日(金)　14:30～16:30
会　場:立正大学 大崎キャンパス第6会議室・熊谷キャンパス第1会議室
(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)
講演者:半田智久氏　お茶の水女子大学教育開発センター教授

半田智久教授を招いて行われた講演会のテーマは、GPA(Grade Point Average)。この評価尺度は元来アメリカ合衆国で開発されたものだが、日本の大学への導入にあたり、懸念された問題点があった。それは下の通り。

- 日本の大学では、科目の重要度を付与単位の多寡で表している。しかし、元来のGPAでは科目数のみが値の計算に反映される。このため、単位数の少ない(専攻分野とは関係の薄い、或いは語学などの)科目によってGPAの点数を上げようとする学生が生じる可能性も否めず、学生の学修を確実に動機付けるとは言えない。
- 従来のGPAはテストスコアからレターグレードを介して算出されていた。このレターグレードでは、テストスコアの一定点数ごとに上から等分の評価区分(グレード)がなされ、落第点はひとくくりの評価となる。よって各評価の中の細かな差は、GPAに反映されない。このため、テストスコアによる学生の順位とGPAによる順位との間に、齟齬が生じる。
これらの点を是正すべく、半田教授はテストスコアから直接GPAを算出する方法を考案した。
- Functional GPA:GP=(TS−55)÷10
(GP=評価値、TS=テストスコア、55=定数)
この是正により、成績評価と履修行動の双方が評価値に反映できるようになった。
半田教授はこの方法を考案するにあたり、導入の容易さを意識したという。この評価方法が広く普及することで、学生の成長や真面目な姿勢が評価対象に含まれ、学生の良き動機付けとなって欲しいと教授は結んだ。

3. FD新任教員研修会報告

開催日:平成21年5月2日(土)　13:30～17:30
会　場:研修会／立正大学 大崎キャンパス1号館1階 第3会議室
懇親会／立正大学 大崎キャンパス1号館4階 第7会議室

本年度からは、新任教員研修会をFD活動の一環として位置づけた。実施目的は下の通り。

1.教員個々人が本学の現状を把握し、共通認識に立った上で教育･研究を実践できるようにすること。
2.部局を越えた教員間のコミュニケーションをはかり、教員同士のつながりを深めること。

FD新任教員研修会プログラム

1.開会挨拶……理事長 及川周介
2−1.『「モラリスト×エキスパート」を育む。』……副学長 山崎和海
～立正大学のブランドビジョンについて
2−2.「初年次教育(導入教育)」……学長補佐 岩本俊郎
～学修の基礎について
2−3.「これからの立正大学」について……副学長 清水千尋
～FD･自己点検評価、教員総合評価、学事改革　事務局長 石黒　誠
～本学の事務組織を考える
3.ワークショップ
Aグループ:「立正大学ブランドビジョンの浸透を考える。」……副学長 山崎和海
Bグループ:「初年次教育(導入教育)を考える。」……学長補佐 岩本俊郎
Cグループ:「これからの立正大学について」……副学長 清水千尋
4.グループ発表
5.閉会挨拶……副学長 山崎和海
懇親会

【研修会】　2−1.『「モラリスト×エキスパート」を育む。』～本学のブランドビジョンについて

立正大学ブランドビジョンについて、山崎副学長から現状と今後の展開が紹介された。内容は次の通り。

1)大学を取り巻く社会環境　2)大学と法人の一体化
3)学園振興政策プロジェクト

特にブランディング戦略については、PDCAサイクルを踏まえた「優れた人材を集め、すぐれた人材を育て、そしてすぐれた人材を輩出する」好循環型ループ構築が重要であるとした。広報活動は、その実現を焦点として進めていくべきであるとの確認もなされた。

2−2.「初年次教育(導入教育)」について

岩本学長補佐から、ユニバーサルアクセスに対応する導入教育･初年次教育への取り組みが説明された。まず、本年度開設の全学共通科目「学修の基礎Ⅰ」･「学修の基礎Ⅱ」についての紹介があった。その後で岩本学長補佐は、人間･社会･地球への